

国際産学連携拠点の概要

資料4

○学術的基盤の整備と、世代を超えて様々な分野の研究者や技術者を育成することにより、浜通りの復興をリードしていく体制を整備。これにより、浜通りにイノベーションを興し、新たな産業基盤を構築。

1 国際的な産学官共同研究室

- 廃炉等の技術開発には、国内外の原子力関係研究機関の英知の結集が必要。
- 国内外の研究者が継続的に駐在し、基礎的・基盤的な研究を実施できる共同研究室を設置。
- 研究テーマとしては、汚染環境調査、環境回復、農林水産業の復興、ロボット技術、住民の健康確保につながる医学、廃炉・汚染水対策などが考えられる。

2 大学教育拠点

- 浜通りは、中通りに比べて高等教育機関が少なく、特に、相双地域は空白地帯。
- 産学官共同研究室に参画する大学や福島県内の大学の教員や技術職員が駐在し、実践的な研究指導・講義を行う教育拠点整備が必要。
- 参加大学が共同で運営。授業の共有や単位互換を実施。福島県内の高等教育機関、企業とも連携。
- 双葉郡内に開校する中高一貫校を始めとした地元の初等・中等教育機関とも連携。

3 技術者研修拠点

- 30～40年程度かかると見込まれる廃炉に携わる技術者の計画的・継続的な確保が必要。
- 福島第一原発の廃炉現場も活用しながら、
 - ①廃炉に携わる技術者
 - ②海外も含めた運転員や技術者の育成のための研修拠点整備が必要。

4 情報発信拠点

- 原子力災害は、未曾有の複合型災害。その経験と教訓の次世代への継承、世界との共有が必要。
- 記録や資料の収集・保存、調査・研究、情報発信・展示、教育・交流・人材育成の機能を有する拠点が必要。
- 原災地域やその周辺に存在する独自の伝統や文化の継承も必要。